

事項	ぶどう「サニールージュ」のジベレリン1回目にホルクロルフエニユロン液剤（フルメット液剤）を加用し早期に処理すると摘粒を省力できる		
ねらい	「サニールージュ」は、ジベレリン処理することで着粒が良好で密着した果房になりやすく、摘粒作業に多くの労力がかかる。ジベレリン1回目にホルクロルフエニユロン液剤を加用し、早期処理することで摘粒作業を大幅に省力化できることが明らかになったので参考に供する。		
指導内容	<p>1 作業の手順</p> <p>(1) ジベレリン1回目早期処理 満開予定日14日～20日前のジベレリン25ppm1回目処理時にホルクロルフエニユロン3ppmを加用し、花房浸漬処理する。</p> <p>(2) 花穂整形の方法 満開後から2回目のジベレリン処理時期までに、着粒数50～60粒を目安に、果房の先端軸長8～10cmの支梗を残し、上部の支梗を取り除くように花穂整形する。</p> <p>(3) ジベレリン2回目処理 満開10～15日後にジベレリン25ppmで果房浸漬する。</p> <p>2 処理の効果</p> <p>(1) 花穂の伸長 ジベレリン1回目早期処理により花穂が伸長する。</p> <p>(2) 摘粒時間の削減 摘粒時の着粒密度が低減して摘粒し易く、摘粒数が少ないため、摘粒時間は慣行の2割程度に削減できる。</p> <p>(3) 熟期の促進 満開日が1～3日早まることで熟期がやや促進される。</p> <p>(4) 品質の向上 本処理では、慣行のジベレリン単用2回処理と比較して、熟期がやや早まり、着粒がやや粗着、果粒形が卵型、1粒重が同等～やや重く、糖度が同等～やや高めになる。</p>		
期待される効果	<p>1 摘粒時間を削減することで省力栽培が可能になる。</p> <p>2 ジベレリン処理や花穂整形の作業労力を分散できる。</p>		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成24年3月1日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬情報」(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)を確認すること。</p> <p>3 本処理により、花かす（花冠、がく片、花糸）が落ちにくくなり収穫期まで残る場合があるので大豆粒大頃までに取り除く。</p> <p>4 現地試験は三八地域県民局地域農林水産部農業普及振興室との連携により実施した。</p>		
問い合わせ先（電話番号）	りんご研究所 県南果樹部 (0178-62-4111)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成21～23年度 試験研究成績概要集（りんご研究所県南果樹部）		

【根拠となった主要な試験結果】

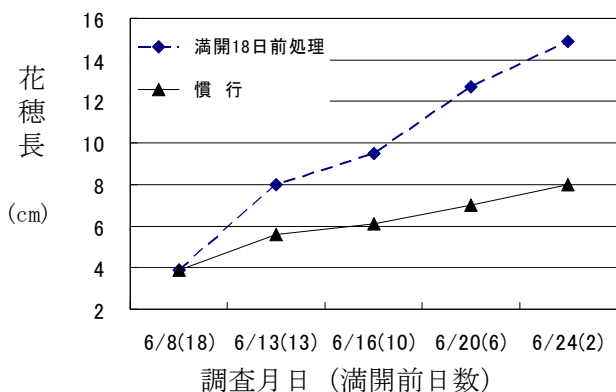


図1 ジベレリン早期処理による花穂の伸長 (平成23年 青森りんご研県南果樹)

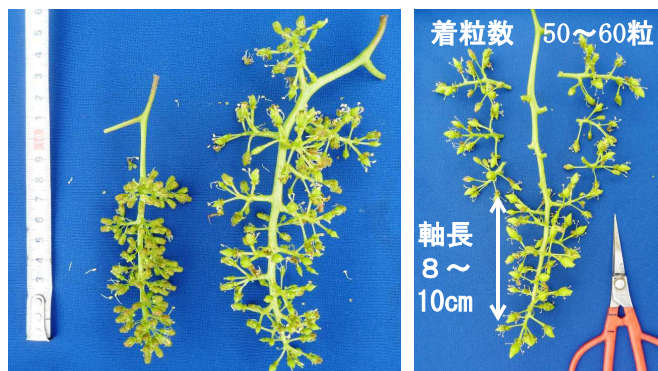


写真1 満開時の花穂 (左：慣行、右：早期処理)

写真2 花穂整形の方法

表1 早期ジベレリン処理による摘粒時間の削減 (平成23年 青森りんご研県南果樹)

区	ジベレリン処理月日		満開日 (月/日)	着粒数 (粒)	軸長 (cm)	着粒密度 (粒/cm)	摘粒数 (粒)	摘粒時間 (秒) (対慣行)
	1回目	2回目						
処理	6/ 8	7/ 4	6/23	56.1	8.7	6.4	2.1	11 (16)
慣行	6/28	7/ 8	6/26	68.2	7.5	9.1	14.3	68 (100)

(注) 露地栽培、処理はジベレリン1回目にホクコルフエニコロン3ppmを加用、6月25日に果房の軸長を8~9cmに整形、慣行は6月23日に先端の花穂長5cmに整形、摘粒は7月9日、調査房数はいずれも10房

表2 無加温ハウス及び露地での軸長別満開日と果実品質 (平成22~23年 青森りんご研県南果樹)

年次・場所・作型	区	ジベレリン処理月日		満開日 (月/日)	果房重 (g)	粒数 (粒)	1粒重 (g)	軸長 (cm)	着粒密度 (粒/cm)	糖度 (%)	酸度 (g/100ML)
		1回目	2回目								
平成22年 県南果樹部 無加温ハウス	軸長 8cm	5/18(-18)	6/14	6/ 4	319	49	5.7	9.6	5.1	17.1	0.51
	軸長 10cm	5/18(-18)	6/14	6/ 4	385	60	6.0	11.8	5.1	17.2	0.51
	慣行	6/ 7(+ 2)	6/17	6/ 5	303	50	5.8	8.3	6.1	18.1	0.57
平成23年 県南果樹部 露地	軸長 6cm	6/ 8(-18)	7/ 4	6/23	333	39	8.6	6.7	5.8	17.5	0.49
	軸長 8cm	6/ 8(-18)	7/ 4	6/23	457	54	8.4	8.8	6.2	17.6	0.48
	慣行	6/28(+ 2)	7/ 8	6/26	395	56	7.1	7.5	7.4	16.8	0.53
平成23年 三戸町川守田・露地	軸長 6cm	6/ 7(-15)	7/ 1	6/20	294	42	6.8	6.8	6.2	18.6	0.47
	軸長 8cm	6/ 7(-15)	7/ 1	6/20	363	55	6.4	8.7	6.4	18.6	0.46
	慣行	6/24(+ 2)	7/ 4	6/22	412	63	6.3	8.6	7.4	17.7	0.48

(注) 1 区の軸長6、8、10cmは果房の軸長をそれぞれ6~7cm、8~9cm、10~11cmに整形
 2 ジベレリン1回目処理月日の()は満開前または満開後日数(日)、調査房数はいずれも10房
 3 収穫月日 平成22年：8月23日、平成23年県南果樹部：9月26日、平成23年三戸町：9月16日

表3 現地無加温ハウスにおける早期ジベレリン処理による満開日と果実品質

(平成23年 三八地域県民局地域農林水産部農業普及振興室)

区	ジベレリン処理月日		満開日 (月/日)	果房重 (g)	果房長 (cm)	粒数 (粒)	1粒重 (g)	軸長 (cm)	着粒密度 (粒/cm)	糖度 (%)	食味	着色程度
	1回目	2回目										
処理	5/12	6/10	5/29	318.7	15.3	46	6.8	9.4	5.0	18.2	4.1	4.9
慣行	5/31	6/12	5/31	367.6	15.5	57	6.2	8.8	6.5	18.0	4.1	5.1

(注) 1 試験場所 三戸町川守田、無加温ハウス (3月17日被覆)
 2 花穂整形 処理：果房の先端軸長8~10cm、
 慣行：開花前に花穂先端5cm
 3 収穫日 8月16日
 4 調査房数 各区40房
 5 食味 1：不適、2：やや不適、3：可食、
 4：良好、5：非常に良好
 6 着色程度 試作カラーチャートによる
 1：薄い~6：濃い



写真3 収穫時の果房

(左から：慣行、軸長6cm、軸長8cm、軸長10cm)